

西条市実践防災計画の実現へ向けて

先月に引き続き「災害に強いまちづくり」について、京都大学の小林正美教授による講義の概要を紹介いたします。今回のテーマは、市が現在取り組んでいる「12歳教育」です。

失った者しか学べない その時のために

教育とは知っている人が知らない人に伝え、学ぶこと。人間には自分の親や子どもを災害で亡くした時にしか学べないものがあります。大切なものを失う、もう元には戻らないという経験をする。その心の痛みを持たないかぎり、想像力だけでは人の苦しみは理解することができません。防災教育は、自分の子どもを助けることができない場面のために、何を伝えておくのかという視点を持たないといけません。

災害で学んだことを 忘れず伝える

今、防災をしているのは大人です。20年、100年に1回の災害のためだけに準備しておいて、今の大人は本番し

はいません。しかし、私たちはその時のための防災をしているのです。

困ったら救助に行くというのは国の義務です。市民社会の人たちがするべきことは、次世代に伝えること。防災のことを常に考えて生きていても、大体3〜5年で終わってしまいます。20年経ったら何も覚えていません。その時にまた同じことになる。しかし人間は強く生きていくから忘れて生きていきます。

ただ、忘れられない人たちがいます。災害で何かを失った経験のある人は自分に何かできることがあったのでは、と恨みが自分に来ます。戦争災害で学んだことは永遠に伝えられていく。100年たっても1000年たっても覚えていく。しかし、自然災害から学んだことはすぐ忘れてしまう。この違いは何なのだろうということなのです。

経験を伝えていくことが 地域の防災力に繋がる

「12歳教育」として子どもたちが防災に参加していることは正解ですが、学校で子どもたちだけでせずに、地域が協力して、おじいさんに昔の災害や地震の体験を話してもらうなどして、地域が一体となつて進めていけるようになっていくことが大切です。

地域社会の中でみんなが協力して、お互いが自分からやってあげたいという風になっていく、経験を徹底的に伝えていくということなのです。

長い人生経験の中で、失ったり、失敗したりしたけど何とか元気にやってこれた、という話を子どもたちに伝えていく。この方法で教えた方が防災の本質が伝わっていくのです。

知っていても被害に遭うのが自然災害です。知らなければさらに大きな被害に遭いますから、危険なことになっていったのに知らなかった、というような地域社会にならないように「12歳教育」を活用して次の世代に伝えていってほしいと思います。

12歳教育推進事業

開催します 第3回 子ども防災サミット

日時 2月9日(金) 13時30分

場所 総合文化会館

市では平成18年度から、防災教育を基軸として、子どもたちの社会性を伸長させることを目的とした「12歳教育推進事業」に取り組んでいます。

今回開催する子ども防災サミットでは市内の小学6年生全児童が一堂に会し、これまで子どもたちが各学校で取り組んできた防災教育や、神戸・淡路方面での防災先進地視察について発表し、意見交換などが行われます。

一般の方については、大ホールで行なわれるサミットの様子を小ホールのスクリーンで視聴できます。子どもたちの熱心な取り組みを、ぜひご観覧ください。

■問合せ 市庁舎別館学校教育課

TEL 0897-56151

内線 5321

あなたの地域には 自主防災会 がありますか？

市では自主防災組織の結成促進と育成に向け、組織づくりの手順や災害への備え、自主防災組織の活動内容・作成会などを通じて、地域防災力の向上をめざしています。



■自主防災組織の結成状況 (平成19年1月1日現在)

組織率：44.5% 組織数：116組織

■地元説明会の実施状況 (平成19年1月1日現在)

回数：40回 参加数：2,227人

内訳：組織結成関係 回数：21回 参加数：848人

防災地図作成 回数：9回 参加数：297人

講習・その他 回数：10回 参加数：1,082人

■問合せ 市庁舎本館危機管理課 防災事業係

TEL0897-56-5151 内線3123